

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017200140		
法人名	すまいる株式会社		
事業所名	グループホームすまいる		
所在地	恵庭市和光町4丁目8-1		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

。家庭的雰囲気の中、職員も楽しみながらケアに取り組んでいる。夏場には庭でバーベキューをし家族も参加、ご近所の方も参加し楽しんでます。看護師の資格をもつ職員が多く、体調管理がより充実してきています。虐待、身体拘束のホーム内勉強会など行い、職員が意識しより適切なケアが出来るようにこころがけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0171200140-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	平成30年12月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は最寄りのバス停が近く、またJR恵庭駅から徒歩で可能な利便性の良い静かな住宅街に立地している。2階建て2ユニットのホームであり、広い庭には季節毎の花や野菜を植えたり食事会などにより、憩いと地域の人々との交流の場ともなっている。職員は食事の支度や庭での仕事など、平日頃から利用者と一緒に穏やかに明るく笑顔で接し、一人ひとりに寄り添いながらケアに励んでいる。家族へのアンケート調査によると、事業所が提供するサービスについて殆どの方々から満足しているとの声が寄せられ、職員の日頃の取り組み姿勢に対し家族から高い評価を得ている。運営推進会議は定期的に開催し、家族、地域住民、市、地域包括支援センター、消防署等が出席の下、主に利用者及び事業活動に関する状況報告などを行い、出席者からの意見等を汲み入れてサービスの向上に活かしている。地域との関わりとして、花見、神社祭、町内夏祭りなど地域の行事へ積極的に参加する一方で、事業所が行う庭でのバーベキューや法人主催のすまいる夏祭り等への参加呼び掛けなど、地域住民との交流を深めている。当事業所では、「安全で楽しく穏やかに」を基本的な柱とする理念を掲げ、これを実践に移すため目標(月間、年間)を立てながらその実現に努力しており、家庭的な雰囲気の中で利用者が安心して毎日の生活が暮らせるよう、日々ケアの向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全で穏やかに基軸と七つの理念にもとづき職員はその理念を踏まえケアを実践するよう努めている。	各ユニットの居間に理念を掲げると共に、ユニット連絡会議の場などを通して職員間で共有を図り、目標(月間、年間)を設定しながら、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し、食事会など参加してもらい交流を深めるよう努めている。	町内会等が催す花見会、町内夏祭り、神社祭など地域の行事へ積極的に参加する一方で、事業所が行うバーベキューや法人主催のすまいる夏祭り等へ地域の人に参加を呼び掛けるなど、日常的に地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会をもてていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し報告とともに、参加者に意見いただいたことを活かし、サービスの向上に努めている。	定例的(2か月毎)に開催し、家族、地域住民、市、地域包括支援センター、消防署等が出席の下、主に利用者及び事業活動に関する状況報告などを中心に行い、意見・要望等を汲み入れてサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ 現状や改善、取り組みなど報告している。	担当職員は市窓口へ報告、手続き、相談などを目的に月1回程度訪問する。一方、市からは毎回運営推進会議へ出席する他、事業所への家庭訪問(年2回)などを通して情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に拘束について研修をおこない、理解を踏まえているが、2階のフロア出入り口は場合により夜間など施錠している。	内・外部の研修会や勉強会に職員が参加し、職員一人ひとりが身体拘束に関する理解と意識を高めると共に、今年見直し整備した「身体拘束ゼロへの手引き」を元に、身体を拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修をし、虐待担当者をきめ、新人研修として内部勉強会を行い、職員全体でとりくんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加は逃したが、後見人がいる入居者がいるため、後見人とこまめに連携をとり、実践で成年後見制について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は家族に説明し、改定などは文書での説明、不明な点は口頭で説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は来訪時、電話でつたえてもらっている。運営推進会議で外部へむけ発信する機会もあり運営に反映するべく努めている。	主に、家族の来訪、電話、運営推進会議への出席時などの機会を通じ、本人・家族等からの意見、要望を汲み入れながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の機会があまりもてていないが、各ユニットリーダーと会議の機会をもち、職員全体の意見をくみとるように取り組んでいる。	日常業務の中で、気づいた事項はその都度各ユニットリーダーを通じ、また、必要に応じて随時開催する「業務改善会議」の場で検討し、出された意見、提案等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の機会があまりもてていないが、職員の力量、勤務形態を把握し、職員環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人がふえ、内部研修の機会をもうけ、新人の力量の把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの会を交流の場とし意見交換、現状報告の場とし、ネットワーク主催の研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階でご本人の意見を伺い、安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で家族の意向を伺い、安心してお任せいただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要求をう。伺い、出来るだけ多くの情報をえた上で、現状に合わせた支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力を理解し生活に役割をもっていたけように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るかぎりご家族の協力をあおぎ、協力しながらご本人を支えている関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、行きたい所へは行けるようにしている。なじみの方が訪ねてくれた場合はゆつくりと過ごして頂けるように努めている。	入居時のアセスメント情報や家族から聴き取った情報を元に、これまでの人と場所との関係を把握して食事やドライブなど希望する場所へ外出支援し、知人等の来訪時には居間、居室でお茶などで接遇して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し円滑に生活していただけるように努めている。孤立しないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの連絡があった際には、相談、支援を引きつずき行っ手いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想い、暮らし希望を把握し、本人の意向を大切にしている。困難な場合、普段の本人の状況を把握し、生活暦を考慮し本人本意に検討している。	入居時に把握した情報に加え、その後本人との日常会話から得た意向等、さらに家族からの情報を介護記録表で把握し、これらを職員間で共有しながら本人の意向に沿うようケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、環境、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズム、心身の状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族要望を十分に踏まえ、スタッフから得た情報も反映した計画を作成している。	本人、家族からの意向、意見を汲み取った毎日のケア内容は、介護記録表により毎月行うモニタリングをもとに、本人・家族や医師などの意見を加え3か月毎に計画を見直し、ケア会議で検討して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、職員間で情報の共有、介護計画の見直しに役だっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズ対応して、既存のサービスのみにとらわれないよう柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの協力を得ながら、より楽しく生活できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービスを開始してからも、それ以前のかかりつけ医に継続してかかることが多い。新規で受診の場合、家族に説明し同意を得てから受診するようにしている。	従前までの病院を希望する場合は継続利用できるよう、かかりつけ医として職員が支援している。協力医療機関での受診と常勤看護職員による看護体制により、緊急時を含め24時間医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と連携をとり、適切な受診、看護をうけられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護婦が中心となり、医療機関との情報交換、相談を行っている。入退院時にスムーズな連携が取れるように関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始の段階で重度化した際のホームの方針の説明を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」について、入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は家族、協力医療機関などと連携しながら協議を行い、家族の意向に沿うよう支援している。	将来、看取りを希望する家族等からの申入れに備え、今後「看取り介護マニュアル」を整備し、研修・勉強会等の実施により、受け入れ体制を整えるよう準備に向けて検討されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の参加や急変時・事故発生時のマニュアルを用いて、必要に応じて対応を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員全体が避難時を想定した動きが出来るように努めている。	避難訓練は主に夜間時の火災を想定し、消防署指導の下、地域住民の参加を得て年2回実施している。避難経路図及び災害全般のマニュアルなどを整備し、また、非常時に備えて水、食料等の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重したう対応を心がけている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、トイレに誘導時は他人に気づかれない促しや、声掛け時は「さん」付けで呼称するなど、自尊心を傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや希望を汲み取り、その意向を反映できるようにケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活のペースを優先し、その日その日を支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を尊重し、身だしなみや、おしゃれをお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力をいかし、準備、かたづけを行ってもらっている。食事をたのしめるように季節のものや希望するものをメニューに取り入れることもある。	利用者は職員と一緒に食事の準備や片付け、食器洗い等の手伝いを行うなど職員と一体感を共有している。また、行事食や外食、庭での飲食等により楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の必要摂取量を判断し、それを確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	航空内の状態を把握し介助が必要な方に適時口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行っている。排泄の自立を目指すべく支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンは、「便の確認表」で把握し、職員間で共有しながら個々人の生活習慣と自尊心に配慮した声掛け誘導により、トイレでの排泄へ向けた自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を豊富に取り入れたり、ヨーグルトをとるなど、食事の工夫をしているほか、必要に応じて、下剤の調節し、排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の自由はきかないものの本人の希望をとりいれ支援を行っている。	入浴は週2回を基本にしているがシャワーのみの人もおり、本人の希望に応じて柔軟に対応している。入浴を余り好まない人には気長に入浴を促し清潔に努めている。必要に応じ2人介助や同性介助にも対応し、また、入浴剤を入れるなど入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよくねむれるよう温度、湿度などの生活環境を整えるなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用、用法、用量について把握しながら、体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を考慮し、台所作業や季節での野菜植え、収穫、行事参加などをつうじ、生活に張り合いをもって頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員の状態のままならない状況もあるが希望により戸外でかけられるように支援するよう努めている。	利用者の希望を取り入れながら、季節毎に応じた外出行事(花見、夏祭り、紅葉狩り等)の他に、日常会話の中から希望を聴き取り、個別外出支援として、散歩、買い物、ドライブなどによる外出の機会を設け、出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルになることも多く、個々の金銭所持はしえいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は移動のしやすさ、過ごしやすさを考慮している。生活音、温度、湿度などにも気にかけている。季節に応じて、装飾品を変えている。植物も置いている。	共用の生活空間としての居間や食堂には、床暖房・冷暖房機、加湿器などが設置され、温湿度を適切に管理し、全館バリアフリー対応となっている。共用スペースには季節に応じた飾り付けや利用者による貼り絵、塗り絵、折り紙等の作品の他、スナップ写真、観葉植物なども置いてあり、癒しを感じる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で1人になれる場所はない。居間のフロアでおもい、おもいに場所を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談し、使い慣れたものを持参してもらい、居室に置いている。過ごしやすい空間になるよう工夫している。	居室には棚、パネルヒーター、スプリンクラーなどが備え付けられ、安全性や生活利便性などに配慮している。日常の住まいとして、本人がこれまでに使い慣れた家具類を始め、写真、置物、飾り物又は仏壇等も持ち込み、居心地の良い住居となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりが全体に設置されていて、歩行をスムーズにしている。居室、トイレなど見やすい場所に張り紙をし、ご本人で判断しやすいようにしている。		